

三國交通  
の衝點崑崙名の  
起因

に因る。蓋し葱嶺の名は山中多く大葱を産するに基くと。葱嶺を通過して露領費爾干州並に巴密爾、阿富汗に到る山路數條あるも、何れも嶮にして僅に土人の相交通するに過ぎず。然れども此部は露、清、英三國領土の交錯する要境謂ゆる巴密爾高原なるが故に大に世の注目を惹けり現に塔什庫爾干の如きは三國交通の衝に當るが故に三國の哨所近く相望むの奇觀を呈せり

### 三 崑崙山脈

崑崙山脈は新疆省南部の大山脈にして葱嶺山脈の喀喇崑崙山より起り東西を過ぎ青海を貫き深く支那内地に走りて大陸地盤の幹系たり。抑、崑崙山は支那古代より、歴史上著名なりと雖も、未だ何れの地方に存在するや、明に之を考證指定したるものを見ず。唯諸種の漢書に依れば玉石の產地たる、和闐南方の雪嶺を指して漫然崑崙と名けしもの、如し而して其名稱の因て起る所は土人の喀什噶爾和闐一帶の南方に聳ゆる雪峯の連脈を稱して「カラコルム」と名くるに始まりしものにて「カラコルム」の「カラ」を省きて「コルム」を轉訛して崑崙と稱呼するに至りしものならんか。又彼の黄河は、源を崑崙山の陰に發すとあるは、漢代西域に使したる